

鉄道ピクトリアル

2004年8月号 Vol.54 No.8 通巻No.750

<特集> オハ35系(II)

■表 紙 大井川鐵道オハフ35 215の車内編 集 部

新金谷 2004-6-5

キヤノンEOS-1N EF17-35mmF2.8L 絞りf8 タイムAE+1.5補正ストロボ使用 RDPⅢ

■カラ一

特集:「汽車」の記憶—現代に生きるオハ35系— (1~5ページ)

小野啓一・藤井貴史・佐藤邦弘

成瀬伸夫・石原裕紀・編 集 部

オハ35系の保存車解説:藤田吾郎 6

フィリピン・マニラの都市鉄道服部 重敬 8

Pictorial Color Gallery マルーンの古豪たち川波伊知郎 81

阪急電鉄のヘッドマーク—2003年度版—成瀬 伸夫 84

〔名古屋鉄道2000系/名古屋臨海高速鉄道1000系/JR西日本〕 86~88
103系3550番代/JR四国トロッコ三重連運転ほか

■グラフ

オハ35系 形式集(郵便車・荷物車・職用車・事業用車etc.編)

構成:藤田吾郎 33

JR西日本 後藤総合車両所 一般形気動車の近況 安藤 寛朗 48

トピック・フォト (各地・関東・中部・関西) 89

九州のわだい 福井 弘・宮川浩一ほか 96

関西ニュース ピックアップ 野村一夫・松橋 均ほか 97

京王井の頭線 新旧車両交代 山口 光 98

阪神の話題 阪神電車鉄道同好会 99

おもいで電車スナップ 往年の名鉄電車(1) 巴川 享則 100

黎明期に見た新潟国電 河 昭一郎 102

■本文

今月の話題:オハ35系編 集 部 9

オハ35系客車のあゆみ(後編) 岡田 誠一 10

旧形容客車時代の鉄道汽船紀行 根本 幸男 27

オハ35系客車ピックアップ 勝村 彰 50

[オハ35系客車 車歴表【後編】] 作成:葛 英一・藤田吾郎 54]

*

鉄道の話題編 集 部 49

JR貨物M250系(スーパーレールカーゴ) 森田 英嗣 74

書評(490)『電車の写真家』 西野 保行 105

連載・設計者のノートから—(8)新しい流れ 守谷 之男 106

フィリピン・マニラの都市交通—現在、そして未来 服部 重敬 110

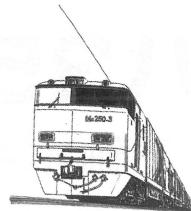
5月のメモ帳 119

読者短信・情報ファイル 120

後部車から 124

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット:山本茂樹

今
月
の
話
題

オハ35系

客車を系列として捉えることができるは、本来1958(昭和33)年の固定編成客車(20系)以降であり、表記のオハ35系といった系列称呼は正式ではない。したがって、ベテラン趣味者の諸氏においては、いささか違和感を覚える向きもあるうがご容赦いただきたいと思う。オハ35系とは、つまりオハ35形を代表とした1938(昭和13)年から1950(昭和25)年にかけて新製された広窓スタイルの鋼製2軸ボギー車の客車を便宜的に区分した系列とご理解いただきたい。

さて、わが国の客車史を振り返ると、昭和初期の鋼製車誕生はその後の発展過程の上で大きな出来事であった。国鉄では安全性の向上を図るために、大正期に海外の鋼製客車を調査し、その結果実用化されたものといわれている。当初は木製車をそのまま鋼製としたような17m車体のオハ31形(戦後の形式称号、以下同)などが誕生し、続いて通称「長形」と呼ばれた丸屋根を採用した20m車体・2軸ボギーのスハネ30形、スハ32形などが1931(昭和6)年以降新製された。そして、さらに側窓の幅を1,000mm以上に拡幅したオハ35形などのスタイルが登場し、戦後のスハ43系誕生まで国鉄客車の標準形として増備が続いたのである。

こうした、昭和初期における一連の客車新製の展開について、その背景を探るには資料が乏しいが、ひとつには鋼製客車計画時に見られるように、主に欧州方面の客車技術を検討して採り入れたことが考えられる。実際、欧州では1900年代に入ると大窓の客車も多く見られ、その他の部位についても欧州系客車のスタイルを意識した技術開発が、模索されたような記録もある。そのあたりの事情をご存知の方がいらっしゃら、ぜひご発表願いたいものである。

TETSUDŌ TOSHO KANKOKAI
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan